

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU-R 部会  
放送業務委員会（第 35 回）議事要旨

1. 日時

平成 22 年 12 月 14 日(火) 14:00～16:10

2. 場所

金融庁共用 1320 会議室（中央合同庁舎 7 号館 13 階）

3. 出席者（敬称略、五十音順）

（主査）

伊東（東京理科大）

（専門委員）

石田（日本テレビ）、岡田（NTT）、岡本（NHK）、高橋（フジテレビ）、都竹（名城大）、豊中（TBS テレビ）、西田（NHK）、平川（東芝）

（説明員）

中山（フジテレビ）、武智（NHK 技研）、浅見（テレビ朝日）、清水（TBS テレビ）

（事務局）

総務省情報通信政策局放送技術課

田中課長、沼田技術企画官、古川課長補佐、浦本課長補佐、松浦国際係長、川上官

4. 配布資料

資料 放-35-1 放送業務委員会（第 34 回）会合議事概要（案）

資料 放-35-2 ITU-R SG6 関連ブロック会合（2010 年秋期）報告書（案）

資料 放-35-3 SG6 関連会合対処方針の遵守の徹底について（案）

資料 放-35-4 今後の検討スケジュール（案）

5. 配布資料確認

事務局から配布資料の確認を行った。

6. 議事

6-1 前回議事録の確認

資料 放-35-1「放送業務委員会（第 34 回）会合議事概要（案）」については、各自一読後、意見がある場合は別途事務局まで連絡することとなった。

6-2 ITU-R SG6 関連ブロック会合の結果について

資料 放-35-2「ITU-R SG6 関連ブロック会合（2010 年秋期）報告書（案）」に基づいて、会合参加者より報告があった。主な質疑応答は以下のとおり。

#### <WP6A>

○ORR に記載されている「一時業務」に対する保護基準は「放送」に対する保護基準と分けて書いた方がよいのではないか。

→RR に記載されていることは、日本では、放送業務の周波数が移動業務、固定業務とかぶって割り当てがされている。日本ではここは放送が運用している。後から入ってくる固定、移動の一時業務から放送業務を保護するものとして、 $I/N = -10\text{dB}$  と規定している。

→共用基準は保護基準よりも緩くなる可能性があるというイメージか。

→放送は広大な範囲をカバーしているので、場所によって変わると考えられる。

→2次業務とホワイトスペースの部分はどんなふうに解決するのか。

→2次業務はRRで定義されている。ホワイトスペースについては、放送業務がフリケーションであったり、移動業務がフリケーションであったりする場合は、1次業務の分類になる。ホワイトスペースを放送業務または移動業務で使う場合には、1次業務の $-10\text{dB}$ が採用されると勧告されている。

→国際的には、どのようになっているのか。

→2次業務の分配もある。ヨーロッパ、アメリカでは移動業務は2次業務の割当になっている。同じ周波数が移動業務でも2次業務として分配されている。

日本はどちらも1次業務になっているので、 $I/N = -10\text{dB}$ を使う形になっている。

○ジョイントグループがあり、IMTとか検討する場だと思うが、検討状況は？

→JTG5-6です。そちらはパラメータ検討、情報を集めている。実際に共用のためにどうするかは、JTG5-6では勧告化を検討していないのではないか。

→JTG5-6は勧告を作るわけではなく、WRCの議題を受けて検討する場。地上業務とか放送業務のところでそのデータを使って勧告を作るということなので、JTG5-6は終わって、その情報をSG5とSG6に戻したというのが現状。

→現在、DVBとの検討を議論している状況で、今回は国内でやればヨーロッパみに小さな国が集まっているところだと、移動と放送がバラバラに入ってくると干渉を及ぼしてしまうので整理するところ。日本は日本国内で整理すればいいと思っている。

→国際対応を考えた時、日本の方式を海外に売り込んでおり、日本方式が採用されなくなった時、日本方式が排除されているようであれば、別の提案をしなければならぬ。共用検討については、継続検討ということで理解している。今後、関係者にご相談させていただき、どういった寄与をしていくか検討していきたい。

#### <WP6B>

○携帯端末向けの勧告だが、今後はどういう形にまとめようか。次までに入れるとかあるのか。

→BT.1833改定案は採択された。あとは、伝送方式の勧告がWP6Aで作成中。

#### <WP6C>

- 拡張カラリメトリのところ、「クリッピング処理により微妙な彩度やテクスチャの違いがなくなってしまう」のところ、誤解と書いてあるが。
  - 受信機側の問題で、ディスプレイが耐性のある場合は処理できるが、そうでない場合はクリッピングが出る。

#### <SG6>

- SG6 会合の期間を 1 日するという話もあった。
  - 期間が短くなっているようですので、うまく日本の情報を入れていくのが大事。

#### 6-3 SG6 関連会合対処方針の遵守の徹底について（案）

- 今回の WP6A 会合の中で、地上デジタル放送の勧告 BT-1306 の議論ので、一人の代表団員の問題発言があり、採択が延びるおそれがあった。結果として、SG6 に無事に送付され、事なきを得た。
  - 今後の対応としては、代表団員は、寄与文書をしっかり理解する、委員会、WG に極力参加するようにする。また、事務局は事前打ち合わせを開催、現地ミーティングをするなどの対応をすることとしたい。
  - ご本人は自分が分かんないから質問したようだ。また、ある特定の要件があって参加し他の案件はあまり関係ないようだが、今回のやり方で設定するというのも一つの手だと思う。別のやり方としては、関連の無い場では発言をするなというのがあると思う。
  - 自分の担当だけやって、それ以外は出ない。パートを決めているので、そこに希望をしたらそこだけ出る。どこまで縛るか、否定するのは難しい。代表団員の方に理解してもらいたいのは、どんな状況であったにせよ、日本提案が危機に陥るのは必ず避けなければいけない。まずはこれで運用してやってみたい。
  - 例えば、アメリカは必ず毎朝ミーティングして、誰が何を発言するかを決めている。そこまで強いものでなくてもいいが、日本代表团という構成員になったからには、関係ない部分であろうとなかろうと、代表团としてやっていくべき。我々としては、単に対処方針を守れという以上に、できる限り会場でいつも意識合わせをしていくということを利用していただきたい。
  - 今回はかなり特殊な例だと思う。ITU 活動の経験が一番長い方の事件なので、こんな方に発注するほうがおかしいのでは。代表としての意識が欠けている。総務省の方で代表団員を厳選してほしい。我々に強要することではないのではないか。
  - 重たい意見だと思う。
  - 特殊な例だとは思っているが、日本代表团として、これを機に、こういうのが最近なかったなというのが行政側の問題点として思っている所もあるので、基本的に、やっていけばいいのではないか。
  - こういうのが起こっていなかったから、問題になっていなかったが、それはそれなりに何も無い状況よりはいいのかなと思う。基本的にということ、運用

については考えていただきたい。

#### 6-4 今後の検討スケジュール

資料 放-35-4「今後の検討スケジュール（案）」に基づいて、事務局より説明があった。

#### 7 閉会